平成 29 年度

第３回在宅医療・介護連携推進協議会

会　議　録

日時：30 年 2 月 1 日（木）午後 1 時 30 分～

会場：湖西市健康福祉センター3 階

小会議室

１　出席者

出席委員

伊 藤　　健　（ 浜名医師会 ）
牛 田　知 宏　（ 浜名医師会 ）
尾 崎　宏 嘉　（ 浜名歯科医師会 ）
塩 野　州 平　（ 浜松市薬剤師会 ）
内 山　大 輔　（ 介護老人保健施設まんさくの里 ）
鈴 木　織 江　（ 浜名病院地域医療連携室 ）
夏 目 志津子　（ 市立湖西病院在宅支援室 ）
白 井　寿 子　（ 訪問看護ステーションはまな ）
尾 崎　和 子　（ 湖西市訪問看護ステーション ）
内 藤 加代子　（ 地域包括支援センター湖西白萩 ）
浅 井　恵 子　（ ケアプランセンター陽菜 ）
稲 本　直 子　（ サンシティーあらい ）
安 間　明 美　（ 湖西市社協介護センターこさい ）

事務局

山 本　　渉　（ 健康福祉部長 ）・・・欠席
和久田　勝 也（ 健康増進課長 ）・・・欠席
佃　　祐 子　（ 健康増進課 課長代理 ）
石 田　裕 之　（ 長寿介護課長 ）
長 田　裕 二　（ 長寿介護課 課長代理 ）
琴 岡　文 乃　（ 長寿介護課 主査 ）

２　会議次第

１　開会　挨拶
２　議題
(1) 2025 年在宅医療等の必要量と提供見込みについて
(2) 平成 30 年度在宅医療・介護推進事業の優先課題の絞り込みと対応
（多職種リーダー研修における行動宣言より）
(3) 平成 30 年度多職種研修内容について
(4) 平成 30 年度市民普及内容について
(5) 湖西市在宅医療データベース調査結果について
(6) 『湖西市の在宅医療・介護お助けブック』作成経過報告について
(7) 在宅医療・介護連携支援センター設置動向報告
３　連絡事項
４　次回案内

３　会議内容（主旨記載）　　午後 1 時 30 開会　　午後３時閉会

１　開会あいさつ	長寿介護課長）　出席お礼。湖西市に割り当てられた見込み量が変更になっている。県の会議でも在宅医療の話や介護連携の話が取り上げられている。新年度予算も包括ケアシステムを充実していくためには予算が３月議会で審議されていく状況である。
２　議事 （１）2025 年在宅医療等の必要量と提供見込みについて	（事務局説明　資料１参考） ※数字訂正：提供推計表の内「外来数 163 を 79 に」「介護老人保健施設 100 を 184 に」 伊藤会長）県に提出した必要量の提言ということで、どこのところも病床の機能分類で病院がだんだんと慢性病棟が減ってきて病院から出てくるだろう老人等が増えていくのでこのような数字になっている。
（２）平成 30 年度在宅医療・介護推進事業の優先課題の絞り込みと対応（多職種リーダー研修における行動宣言より）	（事務局説明　資料２参考） 伊藤会長）事務局より課題の優先順位についての説明があった。優先順位についての意見や追加はあるか。30 年度の行動計画も具体的にまとめてあるが優先順位と具体的な行動宣言に対して承認よろしいか。 （全員　課題に対する追加・意見なし　承認） 優先順位１番目 伊藤会長）取り上げられた優先課題の具体的な内容について意見を頂きたい。まずは課題１在宅医療情報をまとめ発信するということで各団体でまとめて、市でまとめる。6 月上旬にまでに行い７月の協議会で説明し、市内に発信する。内容として、お助けブック等の作成。在宅医療調査機関、データベース医療機関、その他いろんな歯科医師会、薬剤師の訪問を行なうといったところのデータをまとめる。
（３）平成 30 年度多職種研修内容について	優先順位２番目 伊藤会長）専門職と行政の在宅医療の理解をあげようということで多職種研修会を実施する。主に医師会が主催し行政が共催となって年２回以上開催する。今年度はどのような内容で研修会をやるか。今年度の内容も含めて薬剤師会説明。 薬剤師会）30 年度の研修会を考えるにあたって、今年度どういう研修会をやっているかを踏まえながら次年度につなげていければと思っている。今回は元々2 回の予定を３回に実施していただくことになったのと、第１回目はグループワークを通して各職種がどういったプランを考えているか事例を通して勉強するのが主なテーマで始まって、第２回目は前の年度にやり残していたリハビリの専門職のことをみんなで知識を共有することができていなかったからやり、第３回目は薬局業界もかかりつけをということができてきて、周知ができてなかったのが課題として大きかったのでやらしてもらうこととなった。実際の地域で啓発するところや医療いろんな職種の方々の理解を得るようなものを来年度はグループワーク形式で進めていければと思う。

	伊藤会長）今後の予定としては 2 月 8 日のリハビリテーションの研修会、2 月 22 日がかかりつけ薬局・訪問薬剤師の周知、3 月 15 日が認知症研修会専門職の集まり。補助金の出る場所が違う。(29 年度の分）さらに 30 年の 4 月から開催されるものを今日は決めたい。講師を呼んでグループワークをやって意見交換をするような会にするのか、講師を呼んで各自が質問形式でやるのか。具体的に第 1 回目の研修会の内容についてどのような内容を専門職は希望するか。より専門職と多職種が連携するためにはこんな内容がいいのではないか等意見をお願いしたい。 内藤委員）来年度の居宅連絡会のメニューを決めているところであがって取りかかっているところだが、それぞれの専門職の団体で必要なことを、この場で決めずにアンケートをとったらどうか。 伊藤会長）即決せずに 30 年度の専門職との研修会について、3 月末までに市のほうへ FAX してもらう。それをまとめて決める。内容は各々考えて挙げてもらうようにする。 来年度は専門職研修年２回以上で考え内容意見を募集する。 優先順位 3 番目 伊藤会長）市民への説明・啓発について。市民公開講座という形をとってやりたいと思う。何月ころ会場とれるか。 事務局）今日の意見等で調整可能な範囲。皆さんの意見で会場を抑えていく。内容へのご意見をいただく前に資料３を使って説明させていただく。
（４）平成 30 年度市民普及内容について	（事務局説明　資料３参考） 伊藤会長）市民向けにどのような内容で在宅医療・介護を啓発するか。どうしたら在宅の理解が深まるか。住民が何を求めているかにもよるが、住民が何も知らなかったら求めようがないから知らしめようという意味もある。 牛田委員）体制が整っていないことを話しても住民の方にはどうかなと思うので、専門職向けにかかりつけ薬局、薬剤師の話をするのであれば住民向けにも**「かかりつけ薬局・薬剤師」**としてもいいのではないかと思う。他テーマとしては、専門職のことに関しては看取りがあがってくると思うが、体制が整っていないので住民に話をするところまではいけないのかなと思う。12 月 17 日（参加した多職種研修）は看取りがテーマだったので体制が整ったら住民の方にも話していいのかなと思う。在宅医療と重なる部分もあるとは思うが、**「認知症のこと（ケアパスなど)」**があることをもっと知ってもらうことで在宅にもつながるのかなと思う。 鈴木委員）私も湖西市として体制が整ってない状況で話を進めていくのはどうかなと思うが、在宅医療に興味を持ってもらうという意味では**「エンディングノート」**や**「老化していくとはどういうことか（その場合どういった制度が使えるのか)」**はどうか。漠然としてしまうが市民の方にも気づいていただく機会を作るのもいいと思う。 内山委員）12 月に富士の勉強会に参加させていただいたときにエンディングノートや健康維持のノートがあり、そういったもの**「エンディングノート（健康維持ノート）を利用し予**

	防していったり看取りについて考えていく」方がやり易いと思う。 白井委員）訪問看護という職業はどういったものか、訪問看護の存在を知らない方や訪問看護と介護の違いもわからない方が多いので、**「訪問看護の説明」**や**「訪問看護と介護の違い」**説明や普及活動をしていければと思う。 伊藤会長）でた意見をひとつのテーマに入れてもいいと思う。在宅医療の中のだんだん年をとって老いていく中で訪問介護と訪問看護を使いながら、最後に自宅でできれば亡くなりたいというものも含めながらエンディングノートも活用する。このようなやり方もあると思う。 浅井委員）在宅での看取りについて理解するという内容例があるが、言葉はわかるが、自宅で看取りをしたいという方からすると具体的にどういったことが迫ってくるのかを知ることがあると思う。体制も大事だが今までも自宅で看取った方もいるのでそういったご家族からお話を詳しく聞かせていただくのもいいのでは。もうひとつは、自宅で看取りたかったがこういったことで挫折したなどの具体的な話を聞く機会があってもいいと思う。**「実際に自宅で看取った家族の体験談（挫折した又よかった具体例）」** 伊藤会長）体験談を話すほか、文書などでも提出していただいてもいいのでは。話をできる家族がいればよいが。 内藤委員）体が悪くなって動けなくなったら介護保険、見ることが出来なくなったら施設に入ればいい、体が悪くなったら最後は病院に行く、施設に行く、結局大多数の方が施設か病院を考えている。そこの考え方が少し違うことを伝えていく。それがないと看取りというものがわかるかどうか。多くの方がそう考えているが実際は施設にも病院にも入れない状況になってくるんだよという理解をしてもらうことが大切で理解してもらえる方法はないか。先ほど出た**「看取りの体験例（よい例）」**もある。 伊藤会長）市民向けについて知らない事が多すぎる。現在、看取りのほとんどが病院、施設は数十人、訪問ステーションが入っているところは 3～4 人強という実績もある。なんで病院なのか。たしかに病院に入れざる負えない人もいる、余裕があるのに見ない人もいる、一般に死とはどういうものなのか在宅についてもっと知ってもらうような市民向けのものを具体的に挙げて作っていく必要がありそう。そのためには、１つとして訪問看護と訪問介護の説明を分かりやすく皆さん（市民）に知ってもらうことか。やはりどこに行ったらよいかわからない、利用しづらい、めんどくさい、システム等知らない人が多いと思う。 内藤委員）知らない人が多いのとは違うのではないか。みなさん働いているため、仕事がしているところで高齢者というと褥瘡があるから褥瘡の手当てだけではなく見守りであったり日常生活を介護保険ですべてカバーするということはできない。体制上の問題もあるがなかなか難しい。それが今後の医療と介護連携の課題かなと思う。それをしていくにあたってどうしていくか。 伊藤会長）ではエンディングノートとかについてということか、どうやって体制を整えるかとかか。 稲本委員）小規模で今関わっているなかで、みなさん簡単に在宅で小規模使いながら看取りをすると簡単におっしゃるが、今の生活のままスッと亡くなる方はいない。下の世話であったり今まで手がかからなかったことに手がかかってくる、でもやっぱり自宅に引き取りたい

	が小規模から自宅に帰ったときにどれだけ見ているのか不安になる家族がいる。そう思うと**「看取るっていうのがどういうことが考えられるのか」**を理解した上で家族が本当に看取れるのか、施設使って選ぶほうがご本人のためになるのではという例も。看取る中で**「どういうことが本当の看取るっていうことなのか」**理解をしてもらうことも必要だと思う。**「看取る場（自宅・施設・病院等々）について」** 伊藤会長）確かに看取りとは必ずしも自宅とは限らない。 稲本委員）自宅で看取るからっといって困難になると泊まりも入れて看取った方もいた。中にはご家族のほうも小規模のほうに何日か泊まり付き添って看取れた方もいた。最後は自宅で看取るよと言っていてもやっぱり見れなくて、最終的に夜中だったりしたときに連絡してもすぐには行けれないということで職員だけで看取った方もいた。そこらへんの考え方がもう少し理解を深めてもらってから実際どうするか考える（選択する）ほうがいいと思う。 伊藤会長）看取りの考えている範囲が狭かった。必ずしも自宅でにこだわり過ぎていた。看取りっていうのは自宅、居住、施設、病院といったところ。当然、今は病院で亡くなられる方が多いので、それを在宅でとか国の方針でもあるが特養に入っている方もわざわざ亡くなる 2 週間前に救急で入院して病院で亡くなる方も多いので、特養でも安心して看取れることを周知してもらうことも必要だし、看取りそのものは家族がずっと付き添うとか負担になるようなものばかりではなく、みんなで預けても楽にそこの施設に行って 24 時間見れる看取りもあるという**「看取りの仕方」がたくさんあることを市民に知ってもらうことも在宅、医療、看取り、介護かもしれない**。訪問をする往診する、看取りをする意思が少ないのでその中でも**看取りは様々なやり方があることを市民に知ってもらう**。1 時間半の講演に体験談を 1 人や 2 人文書でもいいから入れてもらうとか。これが一つで、もうひとつは認知症の件について。専門職向けでもやり始めたところで、市民に対しても認知症の理解を知ってもらうのもひとつ。最近同報無線でも不明者連絡はある。認知症には薬剤師も絡んでくる。薬がたくさんあるのに頻繁に薬をもらいに来るなど。それを紹介して段階によって訪問看護、訪問介護も付け加えてとういう方法もあるか。他どうか。 安間委員）内容的なことがでたが、住民の人達が**「2025 年になるとどういうことが起きるのかどういう風になるのか」**という市民向けをしていないと思う。それを市民が知らないと市民向けの講演もただ聞くだけになってしまうのでは。それをまず市民の方に知らせてからこの研修なのかなと思う。そういったことがあって段階的に進めていったら市民の方も在宅医療って必要だなとか、聞きに行こうと思うのでは。私達や関係者は理解しているが市民の方は分からないのでまずそこを取り組むべきなのではと思う。今は自宅で看取りたいという方は少ないかもしれないが、**施設や病院に入れなくなる時が来ることを知って、入れない人達が在宅で楽に看取れるように湖西市が変わっていくところ**を市民が分からないと一生懸命看取りの話をしても施設か病院でとなってしまう。そういった話があると市民も変わるのではないか。やっていたらすみません。 伊藤会長）こういう説明はやってないですね。2025 年にはこうなりますよということをやるということですね。説明をテーマにするとかパンフレットにするとか。 安間委員）やる前か方法は色々かと。講演の前に少し入れるとか。2025 年問題があってそれのために湖西市は変わっていく、変わっていこうとするところを市民の方へ見せていかな

	いと、ただ看取りについて等話しても理解が得られないのではないかと思う。 伊藤会長）具体的危機を周知することも大切、その通りですね。一人一人の死への理解・心構えについて考えてもらうことも大切。私達（医師）も自宅で亡くなるときに苦しまないように亡くなるよう努力すること、最後は死亡診断書を書く義務がある。医師側の役目もある。自宅でも苦しんで亡くなる姿は見せたくないし。 牛田委員）パンフレットだと見ないなら各講演の冒頭で入れて看取りでも使えるし介護予防でも使える話だと思う。2025 年の団塊の世代が後期高齢者になることと。2040 年には死亡がピークになる話を踏まえて、お年寄りを若い者は何人で支えることになるのかを毎回冒頭に持ってくれば介護予防や看取りにもつながると思う。ただ、それだけだと時間が持たないと思うので、**各市民向けの話をするときは冒頭にその話をする**と意味があって必要性も理解してくれると思う。 伊藤会長）2035 年の湖西市の人口も推計でででている。4 万人位か？ 事務局）人口は減るが高齢者が増える。 伊藤会長）それでは、テーマとして 30 年度の具体的な内容を絞る。まず、市民に対する認知症の理解促す市民公開講座か、看取りを含めた話、2025 年を踏まえたひとりひとりの終末を考える、もしくは家族が考える看取りについて、その中でエンディングノートの説明を入れて新体制の理解を深めてもらうこと。看取りの場を病院か施設か在宅か等は個人的には市民に選択してほしくないが、ひとりひとりの最後の見送り方について考えようという会などいろいろあがった。認知症もいろいろある。リハビリ関係の人も薬剤師も歯科医師会の方も一言二言いろいろ認知症になったらこうなるとか、だから予防することも言っていきたいし、1 時間半認知症の話をしてもキリがないが 1 弾 2 弾で言っても面白いかも。各専門職が認知症サポート医と薬剤師の組み合わせで話したり、リハビリも入れてもらって市民公開向けに第 1 弾、看取りについてはもう少し考えさせてほしい。みなさんよい意見がたくさん出たので第 2 弾は看取りについてひとりひとり考えてきてもらって、どういうやり方で市民に周知していくか。30 年度のテーマ３「市民への意識改革・啓発」は**看取りもしくは認知症についての説明**（予防・後も含め）会をやるということでどうか。 白井委員）講座、講演のときにそれに対しての介護も入れていただけたらと思う。看取っていくための介護力、認知症を見ていくための介護力というところはご家族がどういう風にやっていくかどんな風に看取れるか、どんな風に認知症の方が介護されていくかは、ご家族の介護力になる。介護する人がもう見れないとなったり、認知症になってもデイサービスに行っていればいいのではと感じるかもしれないが、実際仕事をしている人がデイサービスに送り出す時間とか、そういったところでどんな風にサービスが使えて暮らしていけるかを含めた説明といった認知症介護も取り入れてほしい。 伊藤会長）認知症の講演会について、認知症の大雑把な説明と認知症予防についてと認知症になった場合の介護、家族の関わり。30 年度は認知症でいいか。大雑把な枠組みで。今言った意見も取り入れて市民向けのものを作っていく。機が熟したときにもう少し深めた看取りの話を市民向けにまとまったらやりたいと思う。 内山委員）認知症というところで募集の方法で思うところがある。まんさくの里で地域公開講座をやっていて、認知症のテーマは人気であるが同じ人になっていってしまうところがあ

	る。掘り出す作業をいろいろな多職種がいるので、本来は聞いていただきたい方や他にうまく自分からでは申し込めない方がいるので民生委員さんなどの力を借りて一般的な応募以外にも本当に必要な人が聞きに来れる枠を設けていただけるとより効果があると思う。 伊藤会長）ほとんど高齢者で 80 歳ぐらいの方が多いか。 内藤委員）認知症養成サポーター講座を包括はやっているが本当に人が集まらない。ターゲットを決めて、例えば民生委員さんなら民生委員さんで行なう、今年度はある団体で集めてくれて大勢の方にやった。あと、学校とか。一般に募集をかけるとサポーター養成講座すらいらっしゃらない。サポーター養成講座を認知症とはから入っていく。認知症との関わり方を伝えているがその講座すら市で何年かやっているが実際集まっていない。募集の仕方を考えないといけない。ターゲットを決めて進めるという形。 伊藤会長）市の方で認知症サポーターはやっているか。 事務局）出前講座という形で市の方で設けているのがありまして、講演会として一般向けに募集しているのと、反対に自分達で何人か集まって出前講座に申し込みをしてもらう方法もある。今まであるものに関しては目新しくなくてなかなか集まらない講座もあるが、新しいものが出たりするとそこに来てもらえるものもある。他の団体の方や必要な方に声がかかるようなことは市の方でも一緒に協力してできる事だと思う。主にこの講演会の内容についてはここの人に来てほしいということが明確にあれば、それに対するどこの人に声をかけたら届くかというのは市としてもお願いしていくことはできると思う。 鈴木委員）浜名病院も介護教室をやっていて実際参加される方はご自身が介護されている方になってくるので、その下の世代の方に興味を持っていただかないといけないと思う。例えば、企業にもパンフレットを配布したりしたらどうか。介護される側が聞いたところでつながっていかない。 事務局）企業を管轄する課等他科課に協力を促すこともできる。 伊藤会長）100 人の予定で募集するとすると 100 人の年齢層がまちまち集まるのか、また同じ人が来るのかってことですね。できればこれから介護する側の人に聞いてほしい。何も知らない人が来て聞いてほしいとか。 安間委員他）パンフレットを見て若い人が聞いてみたいと思えるような素敵なものにしてはどうか。 伊藤会長）新聞の広告に載せたり、市のホームページに載せたりとか。 夏目委員）認知症のことに対しすごい興味がある人と自分にはまったく関係ないと思っている人がいると思うが自分の身に降りかかってこないと近い問題として考えられない人も多いと思う。病院でよく聞くのは自分の親や兄弟が認知症ではないのかなと思うが、その人を病院に行って診断を受けさせたいが受けさせ方がわからない。最近物忘れがひどいから病院に行ってみない？というと怒る人もいる。医療者でもそこは困っている。認知症になった人の対応も困ると思うが診断を受けてもらってちゃんと治療を受けてもらったら改善するかもしれないとかしっかりした知識をここで伝えられることを教えてあげるといいのでは。先生に診てもらうのは抵抗がある人でも認知症認定看護師なら相談に来てもらえたりするかも。認めたくない人、周りが困ってている例も多くある。 伊藤会長）聞きづらいところも内容に入れる。市民向けに対しては本当にここが聞きたいと

	いうものをいれてやりたいと思う。診断区分ではなく。 夏目委員）一般的な知識だと割りとネットで見たりして情報は得られるが、具体的に自分の生活にどう関わってくるのか・動きなどの方が興味を持つと思う。 伊藤会長）2025 年問題を含めて、認知症になる前にお医者さんに行こうね。というような市民が興味を持てそうな内容にすればいいと思う。相談できる場所や方法など具体的にできれば多くの方に聞いてもらえると思う。 夏目委員）在宅支援室の介護相談というのと認知症相談というコーナーがあったのだが介護相談が全然いなくて、認知症相談の方に人が集まった。もしかしてと思っている方がいるけど、どうしたらいいのかわからない人が多いと感じている。 伊藤会長）興味がある内容ということですね。では時期はいつごろがいいか。 事務局）多職種の研修会の時期とも合わせて医師会と調整をさせてもらい決めていく予定はいかがか。 伊藤会長）そうしましょう。内容も含め牛田医師と調整へ。
（５）湖西市在宅医療データベース調査結果について	（事務局説明　資料４参考） 事務局）医師会・歯科医師会・薬剤師会代表委員へ依頼事項：情報公開否の黒塗り部分機関へ「実際の公開時にこのように名称以外黒塗りになるがよいか」確認をお願いしたい。公開可否については調整可能。確認よろしいか ３師会代表）了解
（６）『湖西市の在宅医療・介護お助けブック』作成経過報告について	（事務局説明　資料５参考） 事務局）医師会・歯科医師会・薬剤師会代表委員へ依頼事項：P21、P22、P23 の各職種紹介説明ページについて確認いただき、追加修正を市事務局へ連絡いただきたい。2/20 まで又３月中に連絡いただきたい。
（７）在宅医療・介護連携支援センター設置動向報告	（事務局説明　資料６参考） ※相談員人材募集中（市役所だよりにて）
３　連絡事項	・県の医師会からの研修会の案内　2/18 ・リハビリ関係の研修会の案内　3/11 ・3 月末までに議事３の多職種研修会の内容意見提出（議事録等と一緒に FAX 用紙配布）

4　次回案内	7 月 5 日 or 26 日を予定 閉会 **★議事４　住民普及内容意見抜粋** **「かかりつけ薬局・薬剤師」かかりつけの推進** **「認知症のこと（ケアパスなど)」　認知症で在宅で暮らす方法・知識** **「エンディングノート」** **「老化していくとはどういうことか（その場合どういった制度が使えるのか)」** **「エンディングノート（健康維持ノート）を利用し予防していったり看取りについて考えていく」** **「訪問看護の説明」** **「訪問看護と介護の違い」** **「実際に自宅で看取った家族の体験談（挫折した又よかった具体例)」** **「看取りの体験例（よい例)」** **「看取るっていうのがどういうことが考えられるのか」** **「看取る場（自宅・施設・病院等々）について」** **「看取りの仕方」がたくさんあることを市民に知ってもらうことも在宅、医療、看取り、介護かもしれない。** **「看取りは様々なやり方があることを市民に知ってもらう」** **「2025 年になるとどういうことが起きるのかどういう風になるのか」** **「施設や病院に入れなくなる時が来ることを知って、入れない人達が在宅で楽に看取れるように湖西市が変わっていくところ」** **「各市民向けの話をするときは冒頭にその話」** **「看取りもしくは認知症についての説明」** **「看取りは専門職や内部体制がもう少し整ってからはどうか」** **「健康維持　予防」** **「認知症について」疑った時の対応　相談の場　どんなルートをたどるか　自覚ない人や家族向け** **等**